

その「あれ？」を報告できる

動かせるフィジカル



〔編集〕**剣持雄二** けんもつ・ゆうじ

東京医療保健大学大学院看護学研究科
市立青梅総合医療センター 救命救急センター
院内ICU 看護主任／集中ケア認定看護師

2021年より市立青梅総合医療センターに勤務。現在、東京保健医療大学大学院在学。現場での重症患者看護に加え、スタッフ教育や看護の質向上、災害対応などの領域で活動している。日本集中治療医学会評議員、日本クリティカルケア看護学会 評議員／教育委員会委員、日本医療安全調査機構センター調査委員。

〔医学監修〕**宮国泰彦** みやくに・やすひこ

市立青梅総合医療センター 救急科
救命救急センター長

新人の時期は、とにかく「最初にどう動くか」が難しいものです。患者さんの前に立って、いつもより呼吸が浅い気がするとか、返事がゆっくりだとか、何か変だと感じてはいるのに、それをどう言葉にすればいいのかわからず、そのまま時間だけが過ぎてしまう。気づいていたのに声をかけられなかった、あのとき、先にひと言だけでも言っておけばよかった。こうした後悔は、多くの新人が最初に経験するものです。

今回の特集は、この“最初の壁”を乗り越えるために、**付録と本誌を1つの流れとしてつくりました。**

近年では、検査結果を見る前に、ベッドサイドで感じ取れる第一印象や視診の情報が、その後の行動を左右すると考えられています。

例えば、「いつもより呼吸が浅い気がする」「返事が少し遅い」といった、はっきり言葉にしづらい違和感は、決して曖昧なものではありません。こうした最初の気づきが、「次に何を見ればいいのか」「誰に声をかければいいのか」を考える大切な手がかりになります。最近は、このような“最初に見えた小さな変化”を出発点にして、観察や対応を重ねていくことの大切さが強調されています¹⁾。



のつくりかた

呼吸

循環

神経系

消化器

腎・電解質

内分泌・代謝系

救急



付録には、開いた瞬間に「まずどこを見るか」「どんな変化を見逃さないか」「次にどう動くか」がひと目でわかるようにまとめています。最初から原因を突き止めようとしなくてよいし、難しい判断をする必要もありません。**必要なのは、目の前の人に起こっている変化をそのまま受け取って、まずひと言だけ先輩に渡せること。**この最初のひと言が、患者さんの安全を守るうえで非常に大きな意味をもちます。

新人がつまずきやすいのは、気づいているのに言えない、という状態です。例えば、こんなパターンがよく見られます。

気づいた瞬間は「あれ？」と思っていたのに、他の業務に追われて報告のタイミングを逃す。

自分のなかで意味づけをしようと考え込んでしまい、その間に報告のチャンスを失う。

バイタルサインが基準内だから、と安心してしまい、肝心の“変化”を軽く扱ってしまう。

報告をまとめようと丁寧に準備するほど、早く伝えるべき情報が奥に埋もれてしまう。

要点を切り出せず、説明が長くなる一方で、重要な部分が抜け落ちる。

患者の見え方が少し変わったただけなのに、「こんな小さなことで迷惑かけられない」と遠慮してしまう。

こうした“新人あるある”は、悪意でも怠慢でもなく、単に「優先順位の基準」がまだ育っていないことから起こります。

そこで付録では、新人がまずおさえるべき観察の入口と、優先して伝えるべき変化の目安をコンパクトに整理しています。これを知っておけば、あとでまとめて、ではなく、今このタイミングで先に伝えておこう、

という行動に自然とつながります。本当に必要なのは、完璧な報告ではなく、早めのひと言です。

一方で、特集はその行動の裏側にある理由を補う役割を担っています。付録だけでは、「なぜそれが大事なのか」までは十分に書けません。**特集では、呼吸を最初に見る理由、皮膚の冷たさや色が教えてくれる変化、返事の早さや視線の合い方の意味、SBARのどこに何を置くと先輩や医師が動きやすいかなど、臨床の背景を丁寧に補足しています。**

新人にとって大きいのは、これらの知識が単に知っている情報としてではなく、日々の観察を支える判断の軸になることです。同じ患者さんを見ても、最初のころとは見える情報の量が変わってきます。昨日まで気づけなかった変化に目がとまり、そこから先輩への報告がスムーズになる。**行動と理解がつながることで、新人は急速に成長します。**

また、新人は「自分の見立てが正しいかどうか」を気にしすぎる傾向がありますが、本当に大切なのは正解を当てることではありません。状況を1人で抱え込まず、気づいた変化をそのまま渡せるかどうかです。特集で触れている内容は、目の前の「変化」をそのまま声に出して伝えるための後押しにもなります。わからないから動けない、という状態から、動いたからわかる、へ。この転換が起きると、新人の報告は驚くほど変わります。

付録でまず動けるようになり、特集でその理由がわかる。この2つがそうすることで、最初の数秒が安定し、現場での自信も育っていきます。この特集が、新人の皆さんの最初の力強い一歩を支え、現場で迷ったときにそっと背中を押す存在になればうれしく思います。